

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-190080
(P2019-190080A)

(43) 公開日 令和1年10月31日(2019. 10.31)

(51) Int. Cl. F 1 テーマコード (参考)
E O 2 D 27/12 (2006.01) E O 2 D 27/12 Z 2 D O 4 6

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 16 頁)

(21) 出願番号 特願2018-82036 (P2018-82036)
(22) 出願日 平成30年4月23日 (2018. 4. 23)

(71) 出願人 000000446
岡部株式会社
東京都墨田区押上2丁目8番2号
(71) 出願人 598015084
学校法人福岡大学
福岡県福岡市城南区七隈8丁目19番1号
(74) 代理人 100094042
弁理士 鈴木 知
(72) 発明者 横山 真一
東京都墨田区押上2丁目8番2号 岡部株式会社内
(72) 発明者 平山 貴章
東京都墨田区押上2丁目8番2号 岡部株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 杭頭補強構造及び杭頭補強ユニット

(57) 【要約】

【課題】 応力伝達作用及び定着力を十分に確保することが可能であって、基礎中に埋設される配筋と干渉が生じるおそれを低減できると共に、杭頭補強構造として、高強度・高品質の溶接接合を確保できるようにすることで杭頭部周りの施工上の品質を向上することが可能で、構造強度を適切に確保できる杭頭補強構造及び杭頭補強ユニットを提供する。

【解決手段】 杭頭部2の外周面2a側方に、杭頭部の径方向外方へ上下方向縦向きの姿勢で突出させて、杭頭部の周方向に適宜間隔を隔てて配列される板状材4と、杭頭部と接合される第1接合部13及び板状材と接合される第2接合部9を有し、杭頭部と板状材との間で応力伝達する応力伝達用板材5と、板状材に形成した貫通孔7と、板状材に貫通孔周りに杭頭部の周方向へ突設された突出部8とを備え、第2接合部は、板状材及び応力伝達用板材に形成した凹状溝10、14を嵌合し、凹状溝に沿う溶接接合で構成される。

【選択図】 図1

